

第8回北信越体育・保健体育ネットワーク研究会～トキめきラウンド～報告

R1. 9. 28 (土) 新潟市「プラスサード」

第8回「トキめきラウンド」を開催いたしました。県内外から、行政・大学・高校・小学校の教育関係者とこれから教員を目指す学生28名の方にご参加いただきました。ネットワーク常連の先生方から初参加の先生方までが参集し、熱いディスカッションが展開されました。

1 話題提供「新学習指導要領と学習評価」

日本女子体育大学 高橋 修一 教授から、新学習指導要領の趣旨や内容を含めながら、評価についてお話をいただきました。

「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を、適宜評価していくことの重要性を教えてくださいました。「評価は、子どもを切り捨てるために行うのではない。評価することで、できていない子を見付け、できるようにさせ、全員で次のステップに進むために行う」という言葉がとても心に響きました。



2 「指導と評価のカリキュラムについて」

桐蔭横浜大学 佐藤 豊 教授から、新学習指導要領の趣旨や内容等も含めながら、カリキュラム・マネジメントの重要性を教えてくださいました。

「子どもに活用する場面を多くしようとすると、教えることは絞り込んでいかなければならない。また、子どもたち自身が、『なぜこのようなことをしているのか』を自覚できるようにしていないと、子どもたちに身に付いていかない」というお話がありました。

さらに、学習内容の系統性を示し、学習内容のコアの部分を捉える重要性について教えてくださいました。(例 鬼遊び＝空間認知やボールを持たない動き＝ボール運動ゴール型につながる) 運動の本質(学習内容のコア)を知ることが、カリキュラム・マネジメントに活かされてくることになりました。



3 「指導と評価のカリキュラムを作成しよう」

6グループに分かれて、新学習指導要領の内容を考慮しながら、2年間にわたる単元配当を考え、指導と評価のカリキュラムを作成しました。

今回は、ボール運動領域を中心に、2年間の中で、「いつ・どこで・何を」評価するのかを考えていきました。知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度を、2年間の中で学び落しが無いようにバランスよく配置することに気を付けながら作成しました。

どのグループでも、評価の精選が必要になり、それに伴って学習内容も絞ったものにしようとする意識が生まれました。そのため、カリキュラム・マネジメントの視点をしっかりとつことができました。

また、メンバーとの意見交換により、「2年間にわたる単元構成の中で、どこで評価していくのか」や「カリキュラムを早急に見直していく必要がある」等、新たな課題も見えてきました。

